

学校だより(ねあがい)

令和元年5月7日発行 校長 石田 恵一

新しいスタートをふりかえって

根上中学校3年目を迎えました。赴任した時にもお伝えしましたが、根上中学の子ども達は明るく元気です。学校行事や部活動にも一生懸命取り組む姿が見られます。勉強や学校行事、部活動など、どんなこともそうですが、一生懸命頑張るから大変なんだと思います。でもやり遂げた時の感動や達成感は、苦しんだ人にしかわからない、人と心を合わせて頑張った人にしかわからない素晴らしい世界だと思います。子ども達には、大きな感動と達成感を積み重ね、根上中学校でよかったと胸を張って卒業してほしいと常に話しています。また、職員は熱心で、子ども達のために全力で頑張っています。どんな子どもも、新しいスタートを大切に大きく成長し、悔いのない中学生を送りたいと願っています。職員も、全力で子ども達を応援し、子ども達を最高の形で送り出したいと思っています。この願いと思いが重なり、今年度も素晴らしスタートが切れたと思っています。

根上中学校の教育はこのようにすすめています

今年度も新しいスタートに際して、改めて学校経営ビジョンをお伝えします。

1 どのような学校づくりを目指すのか

全職員が心を合わせ、一丸となって教育活動に全力で取り組むことにより、子ども達の無限に近い可能性を開花させていく。そんな学校づくりを目指して学校経営を行います。大人の本気の思いや願いが子ども達を成長させる原動力になると考えています。

2 どんな子ども達に育てほしいのか

みんなが毎日元気に楽しく学校生活を送っている。一旦授業がはじまれば集中して授業にのぞみ、清掃では床と心を黙々と磨き、学校行事や部活動にも高い目標を持ち全力で取り組む子ども達に育てほしいと思っています。そして、すべての子ども達が、大きな感動や達成感を積み重ねながら、人として大きく成長してほしいと考えています。

3 実現に向けて大切にしたいこと

(1)熱意と誠意

熱意が人を動かすと思っています。ただ、熱意は時に空回りしたり、独りよがりになってしまうこともあります。熱意に加えて、子どもの側に立って考える、保護者の側に立って考える誠意を大切にして教育活動にあたります。今年度は、今まで以上に子ども達と向き合い、想いや願い、悩みに耳を傾け、一人一人の自己実現を全力で応援することを重点にしています。

(2)教育は人なり

子どもと先生の信頼関係なくして教育の成果を挙げることは難しいと思います。「あの先生のクラスになりたい」「あの先生の授業をうけたい」という自分なのかを常に問い続け、授業力に加え人間力の向上を目指して校内研修を充実させます。子ども達の成長を心から願う、あたたかく厳しい教師集団でありたいと考えています。

(3)重点化と組織的な対応

あれもやろう、これもやろうではなく、子ども達の実態を見定めて、学校にとって、今、最も大切にしたいことを重点目標とし、計画的（思いつきでなく）、組織的（みんなで）、意図的（ねらいを明確にして）に取り組みます。

4 これまでの重点的な取組

行事や部活動の頑張りだけでなく、授業の空気を変えようと、2年間、全職員で共通理解を図って、授業のルール・マナーとして次の3点を徹底するように取り組んできました。

(1) チャイムで授業をはじめる (2) 正しい姿勢で授業を受ける。

(3) 授業中は、先生や友達の話をきちんと聞く。

これらのことが当たり前になるようになった時、学力は必ず向上します。職員の頑張りや願いに子ども達が応えてくれて、授業の集中力は高まったと思います。子ども達の頑張りに応えるためにも、今後も授業改善の努力を重ね、分かる喜び、できる喜びを実感できる授業実践に務めたいと思います。



新しいスタートへの子どもの想い

新しいスタートを大切にしたいという子どもの思いを、3年生の学年だよりから一つ紹介します。

「1年後の自分へ」

4月、大好きな先生との別れを経て、私はついに3年生となった。1・2年生では初めての中学校生活が始まり、新しい友達が出来たり、部活動ではキャプテンとなって部を支えたり、とても充実していた。

さて、今年はいよいよ根上中学校の「顔」でもある3年生。もう数ヶ月後には受験という大きな壁が私を待っている。私は去年の高校調べで「ここに絶対に行く」という高校が見つかり、その目標、未来を実現するために努力を重ねてきた。私はその努力を今年でもっと大きなものにしていきたい。勉強は難しくなるだろうし、更に部活や行事などとの両立が大変にもなるだろう。しかし、そこで諦めてしまえば「今日くらいいいや」という小さな1回が積み重なること、大きな後悔、そして不合格という現実と向き合うことになるかも知れない。「辛いは一瞬悔いは一生」という言葉を耳にする。まさにその通りだと思う。だから私はこの初心を忘れず、この1年間最後まで全力を尽くし喜びと希望に満ちた笑顔で胸を張って卒業したい。そのために、毎日の授業では「話す・聞く・書く」のメリハリをつけ、解らないところは放っておくのではなく、先生や友達に聞く等して解決し、理解を深めるということをしたい。

1年後の自分はどんな思いを抱えているだろうか？行きたい高校の入学式に出席できているだろうか？中学校生活ラストの1年間を全力で勉強し、全力で部活に励み、全力で燃え、全力で楽しみたい。たくさん笑って一生心に残る思い出の1つになるよう、このクラスで頑張っていきたい。

平成から令和へ

30年余り続いた「平成」が終わり「令和」に改元されました。上皇陛下は、大規模な自然災害が多かった平成の時代、多くの被災地に足を運び、苦境に立つ人々に寄り添い、励ましてくださいました。戦後の節目では、先の大戦で多くの犠牲が出た国内外の各地を巡り、戦争で亡くなった方々を追悼なさいました。戦争の記憶を風化させず、次世代に伝えていく重要性も繰り返し語られました。1日即位した天皇陛下が、即位後のお言葉の中で、「常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望します」と述べられました。天皇陛下のお言葉からも、「平成流」を引き継ぐ新しい時代のあり方が伝わりました。